

【論文要旨】

中国における最低生活保障の受給者の実態と社会的排除 —聴き取り調査を中心に—

The actual situation and social exclusion of minimum livelihood security recipients in China : Based on an interview survey

博士後期課程 政治学専攻 2019年度入学
楊 普鴿
YANG Puge

本研究では、農村の代表的な貧困者である最低生活保障の受給者を対象に聴き取り調査を行い、最低生活保障の受給者の実態はどのようなものなのか、彼・彼女たちはどのような困窮に陥っているかを探究する。

中国の農村部の貧困問題は昔から存在する解決しにくい社会問題である。農村の貧困問題を解決するために、中国政府は農村の経済体制改革、貧困扶助対策など社会保障システムの構築の面から、一連の政策と努力を重ねてきた。それらによって、農村の絶対貧困問題が解決され、貧困扶助事業は段階的に大きな成果を収めた。

しかしながら、都市部と農村部の「二元構造の格差社会」が一層浮き彫りになってきた。それにより、農村の貧困問題は政策によって解決すべき新しい貧困問題の範疇に含まれるようになった。したがって、一部の地域で農村最低生活保障制度の創出の試みがなされ、2007年に国務院が「中国農村生活最低生活保障制度暫行弁法」を公布したことで、ようやく全国的に農村最低生活保障制度が確立された。

農村部の最低生活保障制度の確立は、都市部の最低生活保障制度の副次的な利益にすぎないといえる。しかしながら、この制度の実施は農村部の貧困者たちの基本的な生存問題の解決に役立ち、貧困扶助対策の重要な一環であるといえる。農村の貧困問題や農村最低生活保障制度の研究も、深く広く進んできており、農村の貧困問題および解決方法にかんする研究も数多く存在する。しかし、社会的排除という視点からの研究は少ない。本研究では、社会的排除の視点から最低生活保障の受給者の貧困問題を分析し、最低生活保障制度の改善のための視点を提供したい。

本研究は、三つの部分から構成される。第一の部分では、農村の貧困問題と農村の最低生活保障制度にかんする先行研究をまとめる。第二の部分では、最低生活保障の受給者を対象として行った聴き取り調査に基づいて、農村の貧困者像の表と裏を描き出す。第三の部分では、最低生活保障の受給者が陥る困窮の実態から、彼らが「生きる場」を失っている背景を分析する。

本研究では、筆者が9人の最低生活保障の受給者を対象に、1人につき1～2時間の聴き取り調査を行った。聴き取り調査に基づいて、彼・彼女たちが自立の基盤を失っていることと社会生活に参加することができない状態に関して、社会的排除という視点から分析を行い、農村貧困者層の姿を描き出し、中国農村の貧困問題を把握する。そして、最低生活保障の受給者が陥る困窮実態から、彼らが「生きる場」を失っている背景を明らかにする。